

報告事項イ

特別支援学校運動・スポーツ体制整備プロジェクトチーム会議の概要について

特別支援学校運動・スポーツ体制整備プロジェクトチーム会議の概要について、別紙のとおり報告します。

平成27年4月17日

鳥取県教育委員会教育長 山本仁志

## 1 会議の目的

特別支援学校の幼児児童生徒を取り巻くスポーツ・運動環境の体制整備について協議を行う。

## 2 開催日

平成26年10月31日（金）、12月8日（月）

## 3 協議の概要

### (1) 競技力向上に向けた環境づくり

- ・各学校の部活動は、学校の実態に応じた今までどおりの実施が望ましい。
- ・競技力向上を目指し、社会体育として取り組むならば、外部委託の検討が必要である。
- ・障がい者スポーツ協会や各競技団体と、情報の共有を図るための担当者会が必要である。
- ・大会情報、練習会等の情報提供の在り方を整理する必要がある。  
(県教委からの情報発信、学校の窓口の明確化、小中特別支援学級へ向けても情報発信)
- ・練習会が東中西部で実施されると、参加しやすい。
- ・障がい者スポーツ協会としては競技会に学校行事として参加してほしい。
- ・学校としては、大会参加に係る移動経費（バス借り上げ代等）があると参加しやすい。
- ・就職してからも競技に参加できる体制を更に充実させて欲しい。（企業理解等の推進）

### (2) 運動を楽しめる環境づくり

- ・体を使って表現する楽しさは、広い実態の子どもが感じやすいので、参加できる場があるとよい。

ダンスや踊り、ヨガ等、音楽や人に合わせて体を動かす、自己表現することにより、運動の楽しさを感じたり、自主性が出てきたりといった効果があった。

→学校では行うが、余暇にまで広がるケースは少ない。

- ・保護者が一緒に運動しよう、イベントに連れて行こうと思える環境をつくりたい。

特別支援学校には何らかの理由で一人で外出できない子どもが多い。

↓

学校で子どもと保護者が一緒に体を動かす機会をもち、子どもにとっても保護者にとっても楽しめる体験を充実させる。

活動に障がい者スポーツ協会が参画することで、顔つなぎができる。

(目指せパラリンピック事業の活用等)

- ・地域イベントの企画と広報の工夫があるとよい。

いくつかのブースがあり、自由に参加して自由に帰ることができる

ブースに行くと指導員がおり、子どもの相手をしてくれる

ジムなど、設備の使い方を一人一人に合わせてレクチャーしてくれる 等

企画→周知 できるだけ保護者に気づいてもらえるように、HP、テレビCM

- ・大会やイベントに参加するための移動や介助に対する支援を充実させてほしい。

### 3 今後の方向性

○各特別支援学校担当者、障がい者スポーツ協会、県教育委員会等が定期的に情報交換を行うことで、スポーツに関する環境の充実を目指す。

→「特別支援学校運動・スポーツ推進連絡会（仮称）」を年2回程度実施

○参観日やPTA行事等、保護者が参加する学校での運動活動等に障がい者スポーツ協会と一緒に参加することで、認知度や参加意欲の向上を図る。

→「目指せパラリンピック事業」の活用、運動活動への障がい者スポーツ協会の参加

○社会資源の充実と子どもが参加できるための体制を整えることで、学校の学習を余暇や将来の活動につなげる。

→関係機関と推進施策を協議する場の設定

#### (参考) 特別支援学校運動・スポーツ体制整備プロジェクトチーム会議 メンバー

所 属 名	職 名	氏 名
鳥取盲学校	教頭	三王寺孝子
鳥取聾学校	教諭	霜村 新
鳥取聾学校ひまわり分校	教諭	瀧濱博幸
鳥取養護学校	教諭	橋本恵子
白兔養護学校	教諭	本城睦子
倉吉養護学校	教諭	若原優二
皆生養護学校	教諭	生田仁志
県立米子養護学校	教諭	嘉賀晴美
琴の浦高等特別支援学校	教頭	中谷由美
鳥取県障がい者スポーツ協会	指導員	横野直史